

青年部活動に参加して
～意識一つで人は変わる～

幸手市商工会青年部 太田真宏

幸手市中 2-10-6

そば処大村庵紀ノ川 TEL 0480433591

はい、じゃあ、太田くん、閉めの挨拶、お願いしまーす。

えっ、、私?! あり、ありがとうございます。ごっこ御来店ありがとうございます。

入部当初の私は、口下手で人前で話すことが苦手でした。

青年部事業の打ち上げで当店をご利用頂き、みなさんの前でかわした初めての挨拶でした。そんな私が、青年部活動を通して学んだことを主張したいと思います。私は幸手市商工会青年部の太田真宏と申します。

本日はよろしくお願い致します。

私の家業はおそば屋さんです。両親が幸手に店を構え、今年で 44 年。家族経営の小さなお店です。場所は幸手小学校そばのそば屋。幸手小学校そばのそば屋。このうたい文句が気に入っています。

私は 3 兄弟の長男で幼少期から、「よっ、2 代目!」とか「将来の夢何?」みたいなフレーズはあまり得意でなく、どちらかというと、空を飛び交うビジネスマンを夢見ていました。しかし進路を決める際、後々「自分が継ぎたかった」など言い訳をしたくなかったので、飲食の世界に飛び込みました。

和食の勉強は奥深く、年々その楽しさを感じていました。そんな最中、30 歳を過ぎた頃、一本の電話が「そろそろ、帰ってこないか」内容は父親が大病を患い、仕事を助けてほしいとの事でした。

志半ばではありましたが、帰る決意をします。

地元幸手に帰り、今まで培ってきた和食の技術を発揮できると意気込みます。宴会料理や一品料理は手の込んだものを。そして写真映えするような可愛い器に色とりどりのおばんざい。しかし、何をやってもうまくいきません。人手が足りません。そりゃそうです。お店はそば屋です。御来店されたお客さんに出前、それにお弁当業務と次々に入ってくる注文に精一杯で全く余裕がありませんでした。自分が思い描いていたやり方ではなく、従来通りのやり方のまま、理想と現実のギャップに打ちのめされ、仕事がうまくいかない影響からかプライベートも充実せず、色々な歯車が狂っていたような感じでした。

そんなうまくいかない日々が続く中、地元の仲間から以前より声を掛けられてい

た「商工会青年部」の話を思い出します。私には縁が無い団体だと思っていましたが、この状況を変えるきっかけになればと思い、入部を決めました。しかし会議の開始時間が、営業時間内だったり、入部したものの、ほとんど参加できていませんでした。

そんなある日、青年部事業の打ち上げで、当店をご利用頂き、そのお礼をと後日青年部の会議に向かいました。営業時間を終え急いで向かうと、様々な年齢の様々な業種の方が発言し、意見の飛び交う姿に正直圧倒され、青年部のパワーを見せつけられた瞬間でした。

委員長が資料作成に司会進行し、全体に意見を求めます。意見の出にくそうな方にも配慮が見られたり、隅々まで色々な角度から事業にかかわる事項に漏れがないか検討する姿や自分の意見をしっかり発言することなど勉強になり、充実した時間だったことを今でも覚えています。

そんな私も少しずつ青年部活動に参加するようになり、初めて深く関わった事業が「グルメパスポート」でした。

私が副委員長の頃、地元の飲食店を巻き込んだ新しい事業が出来ないかと議論していました。まだまだ市内に知られていない飲食店が多くある事に着目し、そんなお店を多くに方々に知ってもらいたいという思いから、飲食店の情報を掲載した冊子「グルメパスポート」、街を盛り上げようという新事業が始まりました。委員会に遅参した私は委員長より説明を受け「太田さん、飲食店ということで、担当どうですか??」「・・・担当どうですかじゃねーよ」と思いながら、「男が頼まれちゃ受けるしかない」と強い思いで受諾。

新事業という事で、今までのデータはなく、あらゆることを1から製作していかなければなりませんでした。私は企画書や委員会資料も作った事がなく、パソコン作業も疎く、ソフトを使った原稿作りやQRコードの添付などに時間がかかり、作業の終了時間はほとんど深夜。悪戦苦闘の日々が続き、毎日毎日がいっぱいいっぱいでした。

なんとか事業を成功させたいという思いばかりが大きくなり、あれもこれも自分で抱え込み、周りが見えなくなりました。他のメンバーとの距離が出来始めたのもおそらくこの辺だったかと思います。

そんなある日、「太田さん、皆いますから、頼ってくださいよ」とある部員の一言で目が覚めました。本来なら、役割を決め、担当に振ったり、進捗を伺ったり協力をしていこうと全体を指揮するはずでしたが、実行委員長というポストに、つい肩に力が入りすぎてしまい、自分で動きすぎてしまった。報告、連絡、相談

の重要性や心を仲間に委ねることの大切さ。皆が一つの完成品に向かって団結する大切さ。様々な事を学び、気付けば充実した日々を過ごしていました。一から仕上げた「第1段グルメパスポート」は手作り感満載で、あれもこれにも思い出があり、地図などの作成では時間を要したため眺めながら、2時間くらい酒が呑めそうなくらいです。距離が出来た仲間も顔を合わせりゃ、昔話にそれも酒のつまみのひとつとなりました。

それから、グルメパスポートは、第2段、3段と繋がり、形は変わりながらも、街の飲食の盛り上がりには欠かせない唯一無二の冊子に成長することが出来ました。

飲食店の私が、事業の担当を断ることなくチャレンジしたからこそ、沢山の学びを得ました。飲食のみの勉強だけなら、パソコンの使い方から、文章作成、QRコードを添付してのチラシなど自分で作れなかったのではないかと思います。

この新型コロナウイルス感染拡大に多くの青年部活動の経験が活かしたことは明らかな事実です。あらゆる感染症対策の情報を精査し、コロナ補助金で感染症対策のチラシを作成しました。アクリルボードや検温器、大型換気扇の設置、感染症対策は街でも一番の早さで対策を打ちました。青年部の仲間から、食事の際「マスクを置く場所、困るんだよねー」とあれば、マスクケースをB4の紙で自ら作成しました。感染状況が落ち着いた際には、自分で資料作成し司会進行に接客やサービス、年越しそばの反省など自社の研修会も開催しました。

そんなコロナ渦に出来た、地元幸手、権現堂桜堤にちなんだ当店新メニュー『サクラうどん』。

色々な青年部事業に参加していくうちになんとなくあった「いつかお店でも地域に根差した商品を作りたい」とぼんやり浮かんでいたものが急に舞い降りてきたんです。

小麦粉に桜の花と葉っぱの塩漬けを練り込み、寝かせ作りました。青年部の仲間や家族、会社スタッフに試食をしてもらい、150人以上の意見から事業報告書を学んだように感想を取りまとめました。

塩や酢橘、あんこなどオススメの食べ方で提供する事も沢山の意見がでたからこそ納得のいく商品が出来ました。サクラうどんのポスター制作も青年部クリスマス事業で仲間と共に作成した経験から、アプリを用いて自分で作成しました。

どの風の噂か、サクラうどんがTVに取り上げて頂くこともありました。

また今年の2月に幸手で主管をした北地区交流会、「オンライン交流会」で話が盛り上がり、キャンプが好きな近隣の青年部員の意見から、ヒントを得て、キャ

ンプ用冷凍カレーうどんの試作を作ることが出来ました。

最近では青年部の仲間との会話から、お店の新たな取り組みにチャレンジすることが多くなりました。

事業の大小に関わらず、どんな事業にも必ず発見があり、そこに気付くことがとても大切だと感じています。一生懸命事業に取り組む事で、掛け替えのない仲間が出来ます。すると、目標が出来たり推進力がうまれます。また多業種の仲間と真剣に意見を交わしたからこそ個人の見解も広がりました。

そして何よりも大切な事は、学んだこと感じたことを「伝えること」「実行すること」です。

あの人は自分の意見をしっかり持っている。俺もガンバロ！

彼の事業転換すごくない！？今度聞いてみよう、あ、あの仕事をスタッフにお願いしてみよう、やれることからやろ！

部長の挨拶は、必ずお礼から入るんだよな～今度スタッフミーティング時、真似しよ～

なんでもいいんです。家族や会社で伝えましょう。

青年部に参加する意味が伝わります。

実行しましょう。人は変わるんです。変わります。

私は青年部活動を通して、意識が変わった事でどんな事にもチャレンジしていく大切さを学びました。また口下手だった私も、今この場に立ち、主張を発表できるほどに、なりました。

青年部の仲間との出会いに感謝です。今後も、この学びを事業所でフル活用します！

ご静聴、ありがとうございました。